

わが母校に光あれ



自立・共生・感謝

令和6年2月26日(月)

■ 立志式(2年) ■

2月20日(火)は、「立志式」を行いました。2月9日に予定していましたが、その週初めに2学年においてインフルエンザ罹患の急増があり、式典を延期していました。

式典では、校長先生から「将来は目指す職業がなくなっているかもしれないと言われています。今までの進学先やどんな就職先を目指すのではなく、どう生きていくのかが問われている。」など、将来に向けて、はなむけの式辞を述べられました。

そして、「生徒代表作文」では、各クラスを代表して、西村亮匠さん(1組代表)、濱岡優里さん(2組代表)が発表を行いました。その後、「立志の決意発表」が行われ、参加生徒全員が壇上に入り、色紙に一文字を示しながら、将来への決意を語りました。最後に、甲斐凛和さんの先導のもと、「立志の誓い」を2年生全員で唱和しました。

来賓として、学校運営協議会から委員長の服部武彦様、副委員長の宮田由美子様が出席されましたが、お二方からもお褒めの言葉をいただきました。



■ 参観日及び「講演会」 ■

2月9日(金)は、学校参観日を実施しました。1、3学年は、参観授業・学級懇談を行いました。また、2学年では、上述の通り「立志式」は延期しましたが、参観授業や全校生徒、2年保護者対象に「講演会」を行いました。

「講演会」では、全国で講演活動をされている神奈川県生まれ・在住の「腰塚勇人」氏を講師に招き、『命の授業～ドリー夢メーカーと今を生きる～』と題して講演が行われました。腰塚氏は、自身のスキーでの転倒事故で障がい者となり、最初は絶望や挫折を感じましたが、「自分の命があらゆるものに助けられ、生かされていること」に気づき、「笑顔」「感謝」「周りの人の幸せを願う」をモットーに、体験を元に講演活動をされています。

本校の立志式のねらいである『自分が生かされていることの自覚と周囲の人々への感謝の気持ちを新たに・・・』に、とても合致する講演内容でした。全校生徒の感想・コメントからも、人との関わりの中で自分がどうあればよいかなど深く考えさせられたことがよく分かりました。生徒の今後の生き方に大きく影響を与えていただいたと感じます。

<腰塚氏の五つの誓い>

- 口は人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう
- 目は人のよいところを見るために使おう
- 耳は人の言葉を最後まで聞いてあげるために使おう
- 手足は人を助けるために使おう
- 心は人の痛みがわかるために使おう

■ ボランティアの日 ■

2月11日(日)に、五百禊(いおし)神社と西公園の清掃ボランティア活動が行われ、本校から、寺田柊斗さん(1年)、川西珠羽さん、又川奈樹さん(2年)小園佳奈さん(3年)の4名と教頭先生が参加してくれました。そして、県立日南振徳高校生や飢肥地区まちづくり協議会の方々など、総勢約60名ほどの参加でした。まちづくり協議会会長から、五百禊(いおし)神社は、飢肥藩主伊藤家の菩提寺である報恩寺が、明治5年の廃仏毀釈により、その跡地に建立されたものであると説明を受けるなど、飢肥の歴史を感じる一幕もありました。

当日は、朝9:00に集合し、飢肥中学校は主に、五百禊(いおし)神社の敷地内の枯れ葉の収集や剪定された木々の運搬などの清掃活動をしました。清掃後は前鶴公民館に移動して、カレーライスが振る舞われ、温かくおいしい食事をいただきました。そして、ボランティア活動後の疲れはありましたが、生徒たちは地域に貢献できた心地よい満足感を感じているようでした。

